

[このコンテンツは著作権法で保護されています]

F A I 投資法  
選定銘柄解説集

林知之 著

A decorative graphic consisting of two overlapping circles, one larger and one smaller, positioned in the lower right quadrant of the page. The circles are white outlines on a dark gray background.

はじめに

FAI 投資法で使う月足は、移動平均線を重ねるといった株価データの加工がないので、「直接法」と呼ばれる使い方です。しかし、株価をチャートにした時点で、ある意味、加工されているといえます。

白抜きの陽線や黒塗りの陰線はもちろん、日々の終値を線で結ぶ折れ線チャートでも、終値と終値を結ぶ線は、やはり加工物で、こんな手間をかける狙いは、生身の人間の感覚で値動きを捉えることです。

それなのに、チャートの細かい部分を取り上げて秘密のサインを探すなど、計算式さえあれば可能なことを人の手でやりたくなり、これが誤りを生みます。「三段上げ」といっても、数字の「3」ではなく、「仏の顔も三度」「石の上にも三年」などと同じで、感覚的に捉えられる範囲にとどめるために「3」という数字を使うだけです。

この「3」という数字は便利です。チャートを見て理屈をつけるよりも、なんでもかんでも「松・竹・梅」に分類するくらいが、オトナとして理屈に偏りすぎることを防ぐ最良策ではないでしょうか。

昔から、伝統工芸に携わる職人の家では、後を継ぐ子に、ひたすら“よい仕上がりなもの”だけを見せて完成を育んだそうです。私たちも、月足を眺めながら同じプロセスを再現したいのです。

こうした、意味のある作業を行う実践の資料として、貴重な記録として、本書を仕上げました。

2019年3月

林 知之

## 5301 東海カーボン

---

2015年5月 349円で買い選定

非常に振幅が大きく、前項の昭和電工と比べると極端に値動きが“荒い”と感じてしまうほどです。高値は、2007年10月の1,485円です。実際の売買は難しいのかもしれませんが、やってみないとわかりませんし、値幅がありコンスタントに動く点は魅力的です。

高値から一気に下げ、Aで安値圏に到達しています。約3年半後のBはAの安値を簡単に下回っていますが、下げ止まった時点で「価格の整理が進んだ」と認識します。ルール通りの6連続陰線ではありませんが、同じように見るわけです。

連続陰線は、なんとも暗いイメージを抱かせます。しかしそれは「買いポジションをもっている」場合に限るものです。なんとなく買ったまま上がってほしいと“願っている”状態が前提です。

ですから、ルールの6連続陰線は「整理が進んだので今後は楽しみ」という前向きな見方で、上昇してもいけないのに「強い」と表現するのが正しいのです。

Bの約2年後のCでは、短期間ですが、さすがに小動きになっています。全体としては、「落差が大きい割には底練り期間が不足」との意見もありそうですが、Dの上げを上昇の兆しとみて買い選定しました。実際の選定作業においては、ファンダメンタルが安定していることや、同業の日本カーボンが大きく上伸したことも後押し材料でした。Eのような傾向線を上に抜けたので上昇の第一歩、という見方も成り立つでしょう。

---

